

平成 19 年 8 月 9 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ
代 表 取 締 役 三 木 茂
(コード番号：3807 大証ヘラクレス)
問 い 合 わ せ 先：
取 締 役 総 務 経 理 部 長 上 中 淳 行
電 話 番 号 03 (5212) 8790 (代表)

中間および通期業績予想、配当予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 2 月 14 日の決算発表時に公表いたしました平成 19 年 12 月期（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）の中間および通期業績予想ならびに配当予想について、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 中間業績予想の修正（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日）

(1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	623	△24	△12
今回修正予想(B)	510	△84	△42
増減率(B-A)	△112	△59	△30
増減率(%)	△18.05	—	—
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 12 月期中間)	492	28	13

(2) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	565	△1	△0
今回修正予想(B)	480	△26	△12
増減率(B-A)	△84	△25	△12
増減率(%)	△14.95	—	—
<ご参考> 前期実績 (平成 18 年 12 月期中間)	473	35	19

2. 通期業績予想の修正（平成19年1月1日～平成19年12月31日）

（1）連結業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,340	77	51
今回修正予想(B)	1,063	△159	△79
増減率(B-A)	△276	△236	△130
増減率(%)	△20.65	—	—
<ご参考> 前期実績（平成18年12月期）	981	39	22

（2）個別業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,192	96	57
今回修正予想(B)	987	△39	△21
増減率(B-A)	△204	△135	△79
増減率(%)	△17.14	—	—
<ご参考> 前期実績（平成18年12月期）	940	51	29

3. 配当予想の修正

（単位：円）

	中間期	期末	年間
前回発表予想	—	750	750
今回修正予想	—	—	—
<ご参考> 前期の1株当たりの 配当実績（平成18年12月期）	—	750	750

4. 中間業績予想修正の理由

（1）連結（平成19年1月1日～平成19年6月30日）

連結売上につきましては、当社における変動要因は「中間業績予想修正の理由 個別」に記載のとおりです。

子会社における売上の状況で主たる変動要因となったのは、株式会社フィスコアセットマネジメントにおけるコンサルティング事業であります。

株式会社フィスコアセットマネジメントにおきましては、当中間連結会計期間である平成19年1月末に投資信託委託業の認可取得を受け、5月末に2本のファンドを設定いたしました。しかしながら、当ファンドは新興企業を中心とした株式を投資対象としており、当中間連結会計期間においては新興市場の主要指数が年初来安値を日々更新する展開となったことにより、法人および個人投資家からの信託財産が見込みを下回り、信

託報酬が予想を大きく下回ったことによります。

この結果、連結売上高は前回予想を 112 百万円下回る 510 百万円となる見通しであります。

連結経常利益につきましては、上記株式会社フィスコアセットマネジメントの投資信託委託事業の運用開始にあたり、情報サービス事業を営む当社との物理的な遮断を目的とした事務所の移転等を行いコンプライアンス面の整備・強化のための諸費用を計上したこと、および当事業の成長に不可欠な人材の拡充を積極的に行った結果、前回予想を 59 百万円下回る 84 百万円の経常損失となる見通しであります。

連結中間純利益につきましては、上記株式会社フィスコアセットマネジメントの売上減少および経費増加に伴う損失の影響が大きく、前回予想を 30 百万円下回る 42 百万円の純損失となる見通しです。

なお、4月12日に発表いたしました株式会社エヌ・エヌ・エーの株式取得に伴う損益への影響は、中間期末に株式を取得したものとみなす会計処理が行われるため、中間期における影響はありません。

(2) 個別（平成19年1月1日～平成19年6月30日）

個別売上につきましては、情報サービス事業に関し、個人向けサービスであるクラブフィスコに予想との乖離が生じる事となりました。これは、当初は回復傾向にある日本経済の景気と日経平均株価の上昇とともに、個人投資家の株式への投資意欲も回復するものと見込み、新規会員増加による大幅な売上増加を見込んでおりました。

しかし、市場に対する個人投資家の警戒感はまだ強く、特に新興市場における長引く調整の影響により、弊社が当サービスの主力商品として提供する「定期購読サービス」や「スマートショットレポート」が大きく伸び悩む結果となりました。また、今後も個人投資家の投資意欲の本格的な回復には相当の時間がかかるものと考えられる事によります。

法人向けサービスに関しましては、アウトソーシングサービスにおいて、新規顧客獲得に向けたサービスの提案を積極的に図りましたが、当中間会計期間に大口契約を見込んでいた案件が成約に至らなかったこと、および成約案件において成約までの時間が予想よりかかった事により、売上の計上開始が第3四半期以降に繰り延べられ、当期の売上計上額が減少したことによります。

コンサルティング事業においては、当初見込んでいた地銀等に対する提案を主力事業である情報サービス事業の営業活動に注力するため、来期以降に繰り延べたことが減少要因となりました。

この結果、当社の売上高は前回予想を 84 百万円下回る 480 百万円となる見通しであります。

個別経常利益につきましては、売上原価実績が予想を下回って推移しているため上記売上減少による利益の減少を最小限に抑えていること、および経費節減に極力努め営業

費用の削減を図っておりますが、前回予想を 25 百万円下回る 26 百万円の経常損失となる見通しです。また、個別中間純利益につきましては、前回予想を 12 百万円下回る 12 百万円の純損失となる見通しです。

5. 通期業績予想修正の理由

(1) 連結（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

通期連結売上につきましては、上記中間業績予想に記載いたしました当社の個人向けサービスにおける要因、および子会社である株式会社フィスコアセットマネジメントにおけるコンサルティング事業において、下期においても新興市場において現在の状況が今後も継続する懸念があることを考慮すると売上の急拡大は難しい状況にあります。

この結果、通期連結売上高は前回予想を 276 百万円下回る 1,063 百万円となる見通しであります。連結経常利益につきましては、上記売上減少に伴う利益減少を考慮した結果、前回予想を 236 百万円下回る 159 百万円の経常損失となる見通しであります。また、連結当期純利益につきましては、前回予想を 130 百万円下回る 79 百万円の純損失となる見通しです。

また、株式会社エヌ・エヌ・エーの通期業績予想に与える影響は、7月から12月までの損益による3百万円のプラスがあるものの、取得にかかるのれん償却が11百万円見込まれることから、8百万円の損失となっております。

なお、現在進めているシグマベイスキャピタル株式会社、および株式会社フィナンシャルプラスとの業務・資本提携による通期業績に与える影響は精査中であるため、判明次第お知らせいたします。

(2) 個別（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

通期個別売上につきましては、上記中間業績予想に記載する個人向けサービスであるクラブフィスコの売上の落ち込みを下期において完全に吸収するまでには難しいものと判断し、当社の売上高は前回予想を 204 百万円下回る 987 百万円となる見通しであります。

個別経常利益につきましては、上記売上減少に伴う利益減少の影響はありますが、弊社の今後の事業の根幹を成すシステム面への投資を継続した結果、前回予想を 135 百万円下回る 39 百万円の経常損失となる見通しです。また、個別当期純利益につきましては、前回予想を 79 百万円下回る 21 百万円の純損失となる見通しです。

6. 配当予想修正の理由

個別の通期業績につきましては、上記でご説明しましたように当期純損失 21 百万円が見込まれることから、誠に遺憾ながら無配に修正させていただきたく存じます。

以上



(注) 上記業績予想および配当予想は、発表日現在における入手可能な情報に基づいて作成しておりますが、多分に不確実な要因を含んでおり、実際の業績および配当は今後の様々な要因によって業績予想、配当予想と異なる結果になる可能性があることを予めご承知おきください。